京都・御室仁和寺（おむろにんなじ）

1　所在地　京都市右京区御室大内

2　調査期間　第三次調査　二〇〇〇年（平12）七月～一〇月

3　発掘機関　㈶京都市埋蔵文化財研究所

4　調査担当者　津々池惣一・南出俊彦

5　遺跡の種類　寺院跡

6　遺跡の年代　平安時代後期～鎌倉時代前期、江戸時代前期～中期

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

今回の調査は、仁和寺境内の西南隅にあたる部分で、仁和寺境内において当研究所の担当する第三次調査となる。宗務庁舎等新・改築工事に伴う事前調査である。調査の結果、この地域は少なくとも近世にはゴミ棄て場や火災始末地の様相を呈していたことが判明した。検出した遺構は、平安時代後期から鎌倉時代前期にかけての土門を伴う築地状施設と雨落ち溝、江戸時代前期の築地と雨落ち溝、江戸時代中期の通用路と側溝などである。

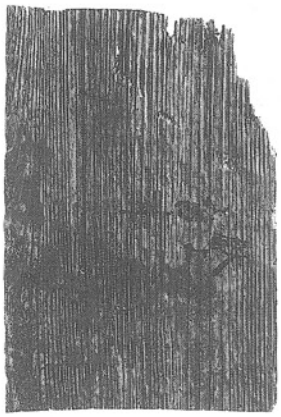
（京都西北部）

今回紹介する木簡は、調査地中央部付近の土坑ＳＫ一二五の第二層から出土した。ＳＫ一二五は、直径一・七ｍ深さ一・一ｍのほぼ円形の土坑である。石組はなく、また埋土中にも石材は検出していないが、調査地を含めた南北方向に伏流水の水脈が想定され、江戸時代の絵図にも井戸が複数描かれていることから、この土坑は水脈に当たらず途中で放棄されゴミ捨て穴に転用された井戸とも考えられる。共伴遺物などからみて、一八世紀第Ⅳ四半期に掘削後程なく埋められたと思われる。共伴した木製品としては、下駄・杓文字・漆器蓋・漆器椀や箸などがある。また、土器には土師器の他、染め付けのそば猪口・手塩皿・紅皿・亀甲文や梅樹文をあしらった椀などがある。施釉陶器には、京焼系の皿・緑釉掛の火入れ、擂り鉢などの焼締陶器の他、「浪花桃州」銘焼塩壺などがある。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「献上香茸」　240×360×6　061

左上部が一部欠損している。また木釘の痕跡が九カ所残っている。この木簡は、「香茸」を納めて「献上」した木箱の蓋と思われる。



「香茸」は中国地方や信州で珍重されている茸であるが、「香茸」は「カウジョウ」とも読み、香蕈の異名で、薬草の一種の意味もある。また、香蕈（こうたけ）の意味とすれば椎茸になる。

9　関係文献

㈶京都市埋蔵文化財研究所『平成一二年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（二〇〇二年刊行予定）

（津々池惣一・南出俊彦）

埋蔵文化財写真技術研究会編

『埋文写真研究』十二号

文化財写真に携わる人の必携マニュアル

巻頭言　山本忠尚

キトラ古墳撮影顛末記　井上直夫

全国埋文写真業務実態調査　牛嶋　茂

竹簡写真における露光修正　郝　勤建

日本初（？）の遺跡カラー写真　編集委員会

旧石器発掘捏造事件と記録　井本　昭　他

頒価　一～三号は品切れ

四～八・十～十二号は三五〇〇円

九号は三〇〇〇円

送料　四冊までは五〇〇円、五～十冊までは一〇〇〇円

一一冊以上は無料

連絡先

〒六三〇―八五七七　奈良市二条町二丁目九番一号

奈良文化財研究所内　埋蔵文化財写真技術研究会

電話　〇七四二―三四―三九三一

郵便振替　〇一〇五〇―九―九九三〇

埋蔵文化財写真技術研究会